

バトンゾーン 先輩から後輩へ①

元宮教組委員長であり、3月で学校を離れ、4月からみやぎ教育文化研究センター所長になった

たかはし たつろう
高橋 達郎先生 のミニ講座です。

様々な学習会が中止される中で、
ここが学びの場となればと思います。



新年度スタート！子どもの願いを受け止め 明るく前進的なトーンを

子どもたちはどんな思いでこの休みを過ごし、どんな願いを胸に抱いて学校に通うのでしょうか。もし私が学校にいて学級担任だったらどう行動していくか。皆さんと考えていきたいです。出会いの日から大切にしたいのは次の点です。

- ①クラスと課題を持った子をよく見て「いいところ」を発見することに勝負をかける。
- ②あたたかいまなざしと明るい口調で休業中の担任の思いを語り、①で発見したクラスと個人の「いいところ」をうれしそうに話す。
- ③どんな気持ちで過ごしどんな願いをもって学校に来たのか聴き合う時間をたっぷり取る。
- ④③をもとに「こんな学級を創っていこう」と学級目標につなげていく。
- ⑤多様な考えが引き出される教材を使って「友だちから学ぶ良さ」「学び合うクラス」を意図的に早い時期につくり出しそれを評価する。

また、具体的な手立てとしては・・・

- ・日記帳を準備し、今日思ったことを帰りに書いてもらい、担任が返事を書き子どもとのパイプをつくる。
- ・帰りの会で、今日頑張ったことや良かったことを発表し、それをもとに今日の「がんばりの歴史」を短冊に書いてコーナー掲示する。（学級の歴史づくり）
- ・教科書の表紙の絵や詩の読み取り等で思ったことの発表。

など、子どもたち一人一人とつながり、「今日学校に来てよかった」と思える工夫を学年に応じてします。そして、安心できる教室づくりや先生への信頼感を築いていくことを丁寧に行ってほしいと思います。出会いの日からの実践をイメージすれば、出会いの日の前に準備すべきことも見えてきます。

以上のことなどから、この時期クラスに「**明るく前進的なトーン**」を生み出していく。とにかく、**授業・活動を通してクラスと子どもたちの良いところを評価していく**ことを大切にしてほしいです。



みやぎ教育文化
研究センター
HP

TEL:022-301-2403

もっと実践が知りたい！
という方はここに連絡を！

担任は
「否定の中に肯定を見る」力が大切。
それは、次回6月号で。

インタビュー

私の「くみあい」

7

「組合って何ですか？」とたずねると、人によってそれぞれ違う答えが返ってきます。組合員のみなさんそれぞれが思う“組合ってこんな存在”を執行委員近藤がインタビュー！

理不尽なことやおかしいことをそのままにして子どもたちの前に立ちたくないです。子どもたちに誠実に向き合っていきたい。子どもの声にならないことばに耳を傾けられる大人でありたい。これからも組合を通して学び、闘っていききたいです。

授業がうまくいかなかったとき、子どもの気持ちかわからなかったとき、職場で悩んだとき・・・どんなときもあたたかく受け入れて、相談にのってくれたのが組合のみなさんでした。サークルで実践を交流したり、青年部としてさまざまな学習会に参加したり、交渉に参加したり、組合でしか学べないことや経験できないこともたくさんありました。多くの仲間や先輩方に支えられて今のわたしがあるのだと実感しています。

Q 先生にとって組合って何ですか？
なくてはならないものです。労働者としての権利を守るためにも、教員としての仕事を続けていくためにも、子どもたちとしっかりと向き合うためにも。

「お話を伺いました。」



第七回の今回は、
仙台市立蒲町小学校
むらもと れい
村元 鈴 先生

第117回宮教組定期大会【5月30日（土）】は紙面決裁とします

分会に、5月22日（金）付大会議案（組合員数）・大会議決票（1枚）が送付されています。分会で協議の上、議案ごとの賛否を記した議決票を6月5日（金）までに宮教組本部（022-274-2130）にFAXしてください。

「協力ありがとうございました。」